

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名 ：京奈和自動車道 一般国道24号 紀北西道路	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 近畿地方整備局
起終点 自：和歌山県紀の川市 神領 至：和歌山県和歌山市 弘西	延長 ：L=12.2km	
事業概要 京奈和自動車道は、京都・奈良・和歌山の拠点都市の連携を強化し、地域の活性化に資する、全長約120kmの高規格幹線道路であり、京滋バイパス、新名神高速道路、西名阪自動車道等と連携し、関西圏の外郭環状機能を持ったネットワークを形成する道路である。紀北西道路は、京奈和自動車道の一部を形成し、広域連携強化による救命救急活動の支援、地域の活性化、国道24号をはじめとする現道交通環境の改善、交通安全の確保、災害時の交通確保を図ること等を目的に計画された道路である。		
H9年度事業化	H11年度都市計画決定	H19年度用地着手
H20年度工事着手		
全体事業費	約1,160億円	事業進捗率 ：約4%
計画交通量	13,900～16,800台/日	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)：1.3	総費用 ：(残事業)/(事業全体) 885/948億円 総便益 ：(残事業)/(事業全体) 1,225/1,225億円 (事業費)：839/902億円 (維持管理費)：46/46億円 (走行時間短縮便益)：1,071/1,071億円 (走行経費減少便益)：99/99億円 (交通事故減少便益)：56/56億円
	(残事業)：1.4	
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.5(交通量+10%) B/C=1.2(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.3(事業費+10%) B/C=1.5(事業費-10%)		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保(紀北西道路の並行区間においては、年間渋滞損失時間が約5割削減) ・安全で安心できるくらしの確保(紀北地域における第3次医療施設への30分圏域の人口比率が約9割(増加)他15項目に該当)		
関係する地方公共団体等の意見 ・平成20年7月、和歌山県京奈和自動車道建設促進協議会より早期完成の要望を受けている。 ・平成20年10月、和歌山県高規格幹線道路建設促進委員会より早期完成の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成16年7月に、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録された。 ・橋本医療圏域からの救急出動件数は平成14年から平成18年の5年間で約1.2倍に増加している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在までに用地取得は約9%完了しており、今後残る区間の用地買収及び工事進捗を図る。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き事業を推進し、平成20年代後半の暫定2車線供用を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 建設発生土の有効利用や新技術・新工法の活用等によるコスト削減に努める。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

再評価結果(平成21年度事業継続箇所)

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	京奈和自動車道 一般国道24号 紀北西道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県紀の川市神領 至：和歌山県和歌山市弘西	延長	L=12.2km		

事業概要図
【位置図】



凡例	
京奈和自動車道	供用中
	事業中
	事業中
その他の有料道路	調査中
	供用中
国道	事業中
	供用中

【概要図】

